

特別支援学校におけるESDによるアクティブ・ラーニングの教育実践(2)

—生活単元学習における注文を受けた花壇づくりの活動を通して

谷村佳則

Educational Practice of Active Learning by means of ESD in Special Needs Education School
: Through the Activity of Making Flower Bed to receive an order as Life Unit Study
TANIMURA Kazunori

キーワード：ESD アクティブ・ラーニング 生活単元学習

概要：筆者は、南九州大学人間発達研究第4巻(2014)において、ESDを展望した教育実践として、前任校である岩手大学教育学部附属特別支援学校中学部で取り組んだ、生活単元学習の教育実践の取り組みを紹介した。また、同じく第7巻(2017)においては、ESDの提起する学び方・教え方と次期学習指導要領の論点整理で示された「アクティブ・ラーニング」のつながりを整理することで、アクティブ・ラーニングの三つの視点である、深い学びの過程・対話的な学びの過程・主体的な学びの過程から、同校での教育実践例を紹介してきた。

本稿は、前研究を継続するとともに、新たな多様性のある学びの場へと持続発展したアクティブ・ラーニングの教育実践例を紹介するものである。

1 はじめに

2015年8月26日に中央教育審議会教育課程企画特別部会より論点整理の報告が行われた。この論点整理では、次期学習指導要領での学習活動の示し方や「アクティブ・ラーニング」の意義が強調され、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」が明確化された。

また、2016年8月19日には、中央教育審議会教育課程企画特別部会より「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめのポイント」として、改訂の基本方針や具体的な改善の方向性が報告された。

そこで、ESDの提起する学び方・教え方と次期学習指導要領の論点整理及び改訂の基本方針等で示された、アクティブ・ラーニングのつながりを整理していくことから、継続研究としての特別支援学校での教育実践例からみた、アクティブ・ラーニングの在り方について論述を進めていくこととする。

2 ESDとアクティブ・ラーニングについて

(1) 論点整理から捉えたアクティブ・ラーニングとは

現行学習指導要領の基本理念「生きる力」の一つである、確かな学力を推進するエンジンとなるのは、子供の学びに向かう力である。また、これを引き出すためには、実社会や実生活に関連した課題などを通じて動機付けを図り、学びに向かう意志を喚起する必要がある。この点から、次期改訂が目指す育成すべき資質・能力を育むために、学びの量とともに、質や深まりが重要であるとされ、「どのように学ぶか」に光が当たった。この結果、次の三つの視点が示されたのである。

- 1 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- 2 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- 3 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

この三つの視点は、「1 深い学びの過程」、「2 対話的な学びの過程」、「3 主体的な学びの過程」となり、「学びを深め、広げ、高める」ことにつながる。これを踏まえて子供の資質や能力を育み展開していくことが、アクティブ・ラーニングの本質である。

(2) ESDとアクティブ・ラーニングのつながり

ESDは、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びを実践するものとして効果的である。「何のために、何を、どのように、学ばせるのか」という課題において、アクティブ・ラーニングは、このなかの「どのように学ばせるか(学ぶか)」に相当する。

この点からも論点整理では、新しい時代に必要となる資質・能力の育成の上で、ESDの学び方・教え方に当たる「どのように学ぶか」が、アクティブ・ラーニングの本質として考えられるようになったものとする。

ESDの学び方・教え方の3点と、アクティブ・ラーニングの三つの視点である学びの過程の関連性をまとめたものが、以下の図である。

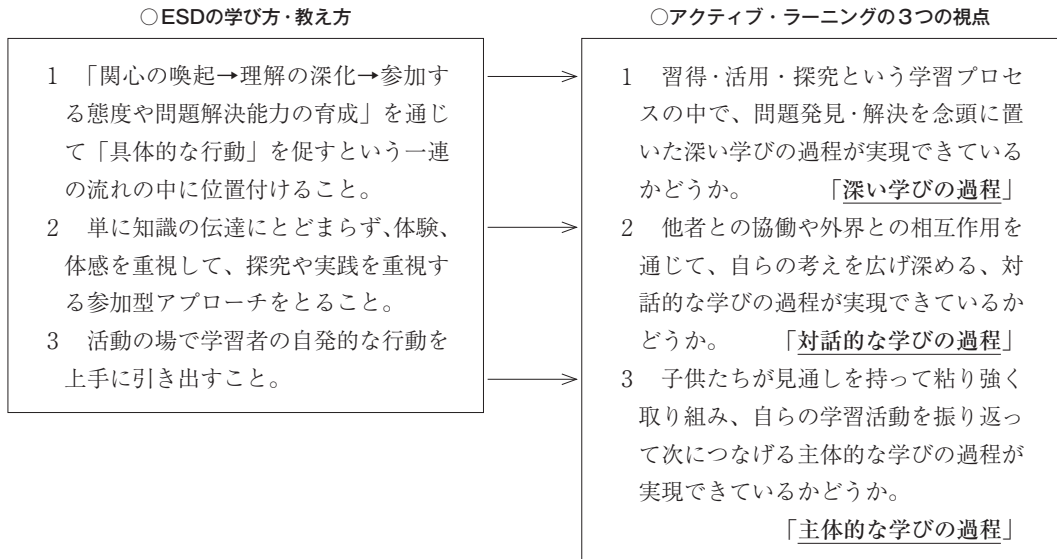


図 ESDの学び方・教え方とアクティブ・ラーニングの3つの視点における関連図

（3）次期学習指導要領の改訂からみたESDとアクティブ・ラーニング

中央教育審議会教育課程企画特別部会より「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめのポイント」として、改訂の基本方針が8項目にわたって示された。

その5項目には、次のように示されている。

○持続可能な開発のための教育（ESD）等の考え方も踏まえつつ、「生きる力」とは何かを以下の資質・能力の3つの柱に沿って具体化し、そのために必要な教育課程の枠組みを分かりやすく再整理。

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

さらに、これを受けて6項目は、次のように示された。

○子供たちが「どのように学ぶか」に着目して、学びの質を高めていくためには、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「アクティブ・ラーニング」の視点から、授業改善の取り組みを活性化していくことが必要。

以上の波線で示した二つの項目からいえることは、学習指導要領の基本理念である「生きる力」の育みに向けて、ESDの考え方を踏まえること。さらに、学びの本質である「主体的・対話的で深い学び」を高めていく上で、アクティブ・ラーニングの三つの視点から、新しい時代に向けた授業改善を推進していくことなのである。

3 ESDによるアクティブ・ラーニングを取り入れた実践例

2008年度に岩手大学教育学部附属特別支援学校中学部の全生徒、職員で取り組んだ、生活単元学習「注文OK！きれいにしよう中野地区活動センター！！」の実践例から、アクティブ・ラーニングの三つの視点に対応した学びの過程を紹介する。

（1）本単元設定の理由と学習活動の概要

前年度に実施した、生活単元学習「きれいにしよう！蝶ヶ森～花壇をつくろう～」の取り組みでは、十分な活動量と地域の役に立てるというテーマにより、地域の人々とのつながりが感じられ、生徒たちの主体的・対話的な深い学びの姿を多く見ることができた。

持続可能な発展的な単元活動を検討していたところ、地区の町内会長さんから「地域の活動センターに花壇を設置してみてもどうか」というお話をいただき、後日、活動センターの所長さんから正式の依頼を受けた。このため、本単元は外部からの注文で行う活動であり、決して次に行われる何かの活動のための練習であったり、擬似的体験ではない。まさに、地域社会と生徒との関係の中で展開される「本物の活動」として、生徒が真剣に取り組む場であり活動となることを願い設定した。

頼まれたことに応えるということが、より実際的で本物の活動であることから、生徒の意欲を高めながら主体的な学びに導いていく。また、友達や教師、地域の人々を含めたかかわり合いの中で、対話的な学びを生み出すことで、深い学びが期待できるものと考えたのである。

主な活動内容は、依頼された花壇の設置である。これは、前年度の学習活動の経験等から、作業の見通しがもちやすく、働くことへのやりがいや生きがいといった活動への意欲につながるもので、地域の方々にも喜んでもらえるような価値のある仕事である。実践に当たっては、実際の花壇づくりを活動内容別に「杭作りグループ」、「内花壇グループ」、「外花壇グループ」、「土作りグループ」の4グループとした。また、花壇づくりから完成パーティーの準備や完成式を含めた日程計画を立てていくことで、単元終了までの見通しをもった学習活動を進めていった。

（2）「1 深い学び」：問題発見・解決を念頭に置いた過程

本単元は、前年度に行ってきた蝶ヶ森での花壇づくりの流れからみると、自然なタイミングで設定することができた。今回は、町内会長さんから

の推薦と活動センターからの依頼を受けての花壇づくりであるため、これまでの生徒たちの活動内容が地域の方々から認められたことから生まれた単元である。このため、活動への動機付けも必然的に高まり、これまでの活動の経験を生かしながら、各自が自身と意欲をもって取り組みを進めていくことができた。

次の写真1と写真2は、活動センターからの依頼を受けてあいさつをしている生徒たちと、花壇設置前のセンター内のグラウンドである。



写真1 活動センター所長さんからの依頼とあいさつ



写真2 花壇設置前の活動センターのグラウンド

単元の期間は、十分な活動量を確保するとともに、生徒たちが学習課題を確認し、単元終了までに課題解決ができる学びとなるように3週間を設定した。また、実際の活動を「注文OK！きれいにしよう中野地区活動センター！！」というテーマとして設定することで、やりがいをもって取り組めるよう考えた。

以上のように、学習課題の発見（設定）から解決に向けた過程を日程計画として話し合う中で、

生徒たちから次のような意見が出された。「花壇が完成したら、お祝いをしたい」、「パーティーを開こう」、「みんなと完成式をしたい」。これは、課題解決のゴールに向けて、見通しをもった学習活動を念頭に入れて、自発的に出た言葉であるといえる。

(3)「2 対話的な学び」：他者との協働や外界との相互作用による過程

一つ目の視点である深い学びの過程では、依頼された花壇づくりの完成に向け、教師や友達、保護者や地域の人々とかかわり合いを広げながら活動していくことを目指して、二つ目の視点である対話的な学びの過程に取り組んでいくために、次の2点の手立てを考えた。

- ①活動ごとに重要な役割があることを知り、各自が連携した活動を行うことで、お互いの活動を意識し、励まし合い協力し合えるようにする。また、教師は共に働く仲間として活動に参加し、必要に応じて支援を行うようにする。
- ②生徒の活動の様子を写真入り通信で保護者に伝えることで、家庭でも話題にしてテーマを共有できるようにする。また、活動に関係した多くの方々に参加してもらうことで、交流を広げ深めるようにする。

写真3、4は、手立ての①として、「内花壇グループ」による、活動センター内のゲートボール場の一角で花壇づくりを行っている様子である。友達の活動が見えるような場の設定の工夫を行ったことで、お互いの役割が何であるかが分かりやすくなり、友達を励ましたり、時には競い合うなど、「仲間」との自然なかかわりが多く見られるようになった。また、仕事の方法や道具の選択等について自分で考える、選ぶという自己選択の場面も見られた。スコップの持ち方、ふるいの使い方など、教師が示した方法とは異なっていることもあったが、自分なりに工夫して、効率的な方法を見出していた。また、生徒によっては教師と役割を分担しながら一つの作業を成し遂げる場面も見られ、教師も仲間として共に活動をすることができた。

次に、手立ての②として、生徒の活動の様子を



写真3 花壇づくり（土のふるい）



写真4 花壇づくり（土おこし）

3週間にわたり写真入り通信で保護者に伝えることを行ってきた。このことで、保護者も生徒の活動に興味をもち、帰宅後の生徒と今日の活動はどうであったかを対話したり、実際に活動をしている中野地区活動センターまで見学に来ることも見られるようになった。また、通信欄に保護者の記

入欄を設けることで、様々な意見や感想、励ましの言葉をいただいた。これを生徒や教師自身に返していくことで、保護者と生徒、教師がテーマを共有できるようになり、活動への相互作用が働くようになってきた。

次の資料は、作成した通信の一例である。


注文OK！きれいにしよう中野地区活動センター！！ 第5号

平成20年10月7日（火）

秋の日差しの中、9時45分に玄関前を出発、汗を流しながら杭づくりグループのつくった花壇杭を持って10時過ぎには活動センターに到着。土づくりグループは、屋外の活動でも暑さを気にせず一生懸命に取り組んでいました。4つのグループとも、仕事の後の水がとても美味しかったようで、満足した様子で飲み干していました。明日も、生徒たちの頑張る姿が楽しみです。


杭づくりグループ

長方形の広い花壇をつくるには5連の花壇杭が48セット必要です。先週の木曜日に9個、昨日10個、そして今日10個、残り19個になりました目標に向けて頑張っています。




内花壇・外花壇づくりグループ

「あつ〜い」と言いながらも手を休めることなく、仕事が順調に進んでいます。学校に戻ったみんなに副校長先生が「健康的だね」と声を掛けてくれました。



土づくりグループ

花壇杭が並び、花壇の形が少しずつ見えてきました。ふるいに穴があいたり、一輪車のタイヤの空気が抜けたり道具も疲れてきましたが、お互いに声を掛け合いながら土づくりに励んでいます。



【ご家庭から】

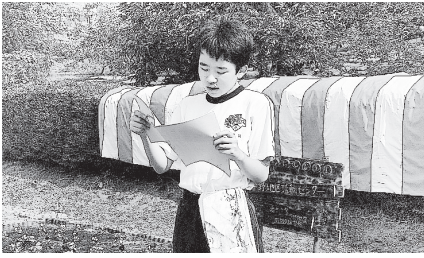


写真5 花壇の贈呈式



写真6 完成した花壇の前で記念写真

さらに、手立ての②として、完成式に多くの方々に参加してもらいたいと計画を立てていたが、生徒たちの活動への称賛からか、活動センターの職員をはじめ、センターでゲートボールを楽しんでいるお年寄り、ご近所の方々、町内会役員の方々、保護者の方々が必然的に詰め掛けてくれ、交流を広げ深めることができた。

完成式のプログラムである花壇の贈呈式では、生徒代表が贈呈に向けての言葉を誇らしげに読み上げるなど、意義のある価値の高い活動をやり遂げた自信がみなぎっていた。

完成式後のパーティーの計画は生徒たちが立て、調理活動から余興などもグループごとに行った。テーマを共有した多くの方々と、活動を振り返りながら会話をを行うことで、他者との協働意識を通した対話的な学びを深めることができた。

(4)「3 主体的な学び」：見通しを持って取り組みにつなげる過程

本単元の主な活動内容は、依頼された花壇の設置である。これは、前年度の学習活動の経験等から、見通しをもって取り組める活動である。さらに、これまでの取り組みが認められ依頼を受けてのものであることから、働くことのやりがいや生

きがいといった活動への意欲につながるものであり、地域の方々にも喜んでもらえるような価値のある仕事でもあった。

前項で記述した、完成式及び完成パーティーでの生徒たちは、活動を終えた充実感とともに、活動内容を懐かしみ振り返りながら、お互いを認め合う姿が見られた。これは、成功体験からくる自尊感情の高まりでもあり、新たな活動へ向かおうとする自発的・自主的な姿でもある。こうした姿に、見通しをもって取り組んだ主体的な学びの実現が現れていた。

写真7は、完成パーティーでの様子である。



写真7 完成パーティーでの対話の様子

4 まとめと考察

本単元設定の理由にあるように、頼まれたことに応えるという活動は、より実際の本物の活動であることから、生徒の意欲を高めながら主体的な学びに導いていくことができた。また、友達や教師、地域の人々を含めたかかわり合いの中で、対話的な学びを生み出すとともに、深い学びを生み出すこともできた。

主な活動内容は、依頼された花壇の設置である。これは、前年度の学習活動の経験等から、作業の見通しがもちやすく、働くことへのやりがいや生きがいといった活動への意欲につながるもので、地域の方々にも喜んでもらえるような価値のある仕事である

このことは、ESDの目標でもある「1 すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること。」「2 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込ま

れること。」の達成につながり、生徒の生きる力の育成にもつながる成果であったと考える。

また、これまでの単元と同様に、繰り返し活動に取り組むことにより、働く力が育まれ、以前よりも一人で行うことができる仕事量が増えた生徒も多くみられた。特に3年生は、これまでの生活単元学習の様子を振り返ると大きく成長し、体力面や技術面のみならず、リーダーシップを発揮し、積極的に活動に取り組むようになったといえる。

このことも、ESDの目標である「3環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすこと。」の達成につながり、高等部進学後の学習活動又は卒業後の就労に向け、進んで問題を解決し、主体的に行動する力の育成にもつながる成果であったと考える。

ユネスコの提起するESDの学び方・教え方が、「どのように学ぶか」に視点が置かれることで、論点整理ではアクティブ・ラーニングとして捉えられた。このため、今後のESDの教育実践は、学びの過程として提起している3つの視点を取り入れた、アクティブ・ラーニングの具現化につながるものと考えられる。

最後に、中央教育審議会教育課程企画特別部会より「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめのポイント」として、具体的な改善の方向性が示され、この中の項目に次の記述がある。

○学習過程を質的に改善し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために必要な授業改善の視点（「アクティブ・ラーニング」）を教科等を越えて共有。あわせて、各教科等の特質に応じた「主体的・対話的で深い学び」について考え方を整理し、指導事例集の作成等に反映。

このことから分かるように、今後は、各学校校種でアクティブ・ラーニングの授業実践を通して授業改善を図りながら、授業実践事例を集約し、積み重ねていくことで、将来の児童生徒の学びの質の向上に生かしていくことが大切である。

参考・引用文献

- 1) 「研究紀要第19集」、岩手大学教育学部附属特別支援学校、(2007年)
- 2) 谷村佳則・高橋勉・最上一郎・田淵健・鎌田文聰・我妻則明・宮崎眞、「個々の教育的ニーズにこたえ、社会生活力を育み支援していくための授業実践(1)－研究の経過とエンパワメント概念の確定－」、岩手大学教育学部研究年報、第66巻、P1－11、(2007年)
- 3) 谷村佳則・田淵健・稲邊宣彦・我妻則明・鎌田文聰・宮崎眞、「個々の教育的ニーズにこたえ、社会生活力を育み支援していくための授業実践(2)－エンパワメントを生かした授業づくりを通して－」、岩手大学教育学部研究年報、第67巻、P105－118、(2008年)
- 4) 「研究紀要第20集」、岩手大学教育学部附属特別支援学校、(2009年)
- 5) 谷村佳則、「特別支援学校におけるESDを展望した教育実践－生活単元学習における花壇づくりの活動を通して－」、南九州大学人間発達研究第4巻、P68－75、(2014年)
- 6) 谷村佳則、「特別支援学校における持続可能な開発のための教育(ESD)を展望した教育実践例」、日本発達障害学会第49回大会発表論文集、P78、(2014年)
- 7) 谷村佳則、「特別支援教育とESDの関連性に関する研究－ユネスコスクールと特別支援教育の教育課程を通して－」、南九州大学人間発達研究第5巻、P57－61、(2015年)
- 8) 谷村佳則、「ESDによるアクティブ・ラーニングの教育実践例－生活単元学習における花壇づくりの活動を通して－」、日本発達障害学会第51回大会発表論文集、P110、(2016年)
- 9) 谷村佳則、「特別支援学校におけるESDによるアクティブ・ラーニングの教育実践(1)－生活単元学習における花壇づくりの活動を通して－」、南九州大学人間発達研究第7巻、P65－71、(2017年)